

「財政破綻後の日本経済の姿」に関する研究会 議事録

第9回 2013.1.25 (金)

「開店休業」を宣言して以来初めてとなる今回の会合では、貝塚氏から「曲がり角にきた日本の社会保障」と題する報告を受け、討議した。近日中にどこかでお話しになる話題のようであった。出席者が少なかったこともあり、提示された話題と関連資料をめぐって議論は錯綜し、内容も自由かつ大胆に飛翔した。

「財政破綻後・・・」と「曲がり角・・・」では違いすぎる・・・と考える向きもあるかもしれない。「破綻後」に直面する深刻な混乱状況下で現実化する事態に備えるとするれば、何に重点を置くべきか、最低限どのようなことを念頭に置くべきか、いかなる制度・条件を事前に整備しておく必要があるかなどと考えれば、これまでの場当たりのツギハギのような制度および制度論議を大胆かつ冷静に見直しておかなければ、と考える違和感はないだろう。

実際、年金名簿に関して、「どうしてこうなっちゃうんでしょうかね?」「こんな結果になることは予想できなかったのですかね?」「名簿不備の大量発生だって、大騒動になる遥か前に気づいた関係者が少なくなかったでしょう。何をしていたんでしょうね?他省庁や政治家の中にだって、こういう結果に早くから気づいた人は少なくなかったでしょう。メディアを含めてあの時騒いだ人たちの中にだって・・・?」という点も話題になった。社会保障制度についても、「見直し論議の連続ですが、制度創設時とまでは言わないとしても、5年前には予想・予定されているんですかね?」「諸官庁の実質的責任者や関係審議会等のメンバーなどは、結果である現状を見て、何を考えているんでしょうかね?」「どうしたら、次の見直し・改革などが不要な状況を生み出すことができるのですかね」なども話題となった。

三輪も、「われわれの年金は大丈夫ですかね・・・」と水を向けた同僚から、「百年持続する制度にしましたから」と大真面目な顔で宣言され、健保組合解散の記事が相次いだ時期に「医療保険制度は大丈夫ですかね」と聞いて、「何か問題があるとでもおっしゃるのですか」と怖い顔で叱られたことを思い出す。数年前のことである。

その立場に1年あるいは2年しか在任しない「責任者」が制度設計の基本と細部に関わる事項・内容を実質的に決定し、そういう責任者が選任するメンバーにより構成される審議会等で検討する。結果が出る頃には誰もその場にはいない。居るのは交代した「責任者」と彼らにも選任され続ける審議会メンバー等だけである(メディアの代表のような人たちがここに含まれるのが通常である)。こういう状況が延々と続いてきた。これではこういう結果になっても少しも驚かないと多くの読者は考えるだろう。霞が関・永田町の住民たちも、例外ではなく、こんなことは十分すぎるほど理解しているはずだ。当然、こういうことを口に

する人間はそういう審議会等には参加しない。

「しかし、それを言っちゃあ・・・」と考える読者も多いだろう。「納税者番号制度程度のものは整備しておかなくっちゃ」と考える向きも少なくない。しかし、こういうことも話題として登場して久しく、実現の見通しはなかなかのようだ。

こういう状況下で、何とか委員会が基本計画に関する結論を夏までに出すそうである。いかなる実質的制約条件下で設置され、いかなる基準・考え方に基づいてメンバーが選定され、何を目的・目標にして検討するのか定かではないが、「やれやれご苦労なことだ・・・」と思いつつも、今回は「数年後に見直し論議をする余裕もないかもしれない」と考えてしまう。

昔なら、貝塚氏も三輪も、「こういうことを繰り返しているうちにわれわれの世代は・・・、将来の世代からいろいろ言われることになる・・・、残念ながら」と苦笑することになっただろう。

社会保障制度に関わる多様な話題・内容に関して自由・気ままなどでも表現すべき内容の
会合の実現を可能にいただいた貝塚氏に深謝します。(文責：三輪芳朗)